

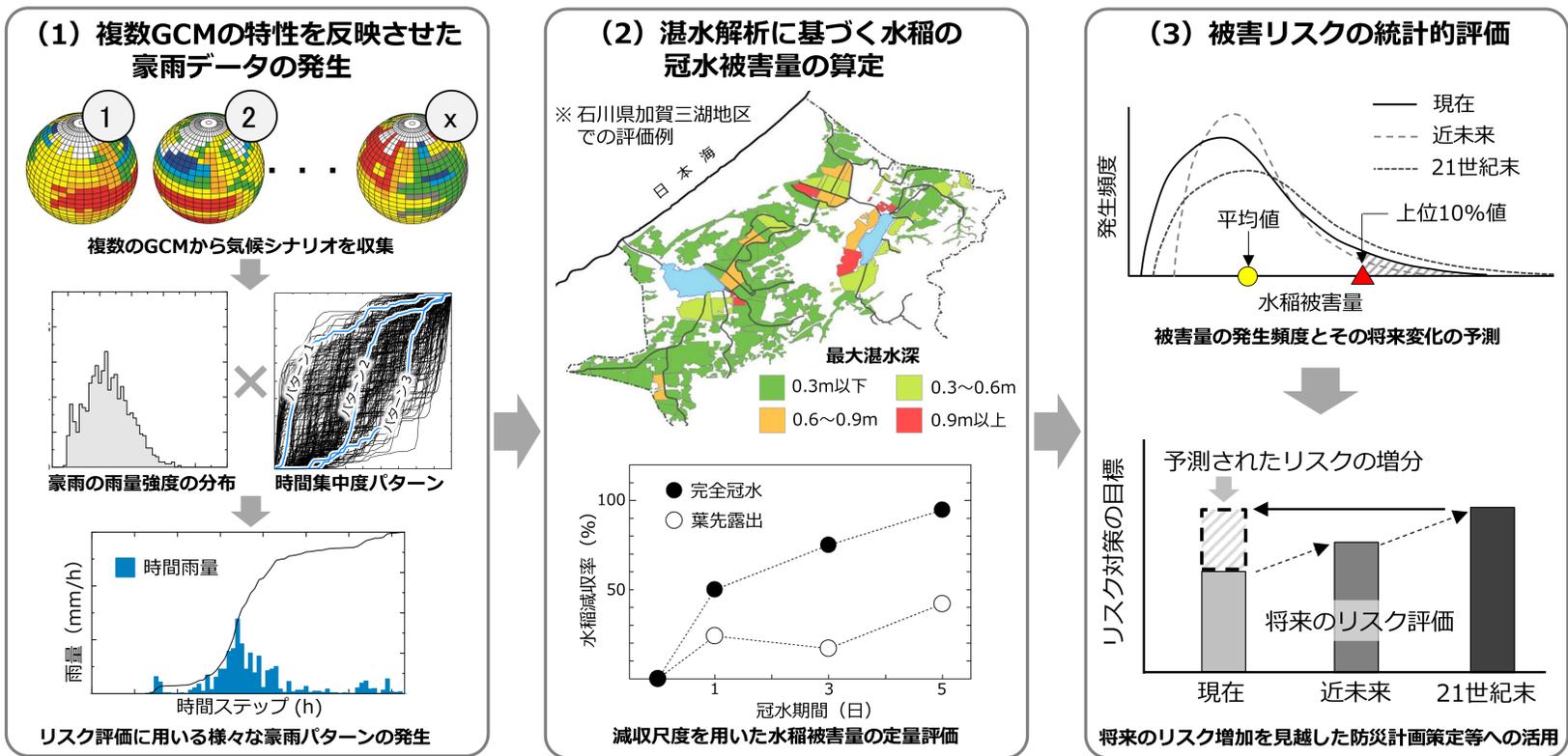
将来豪雨に対応した水利施設計画・管理のための 水稲被害リスクの評価法

農研機構 農村工学研究部門

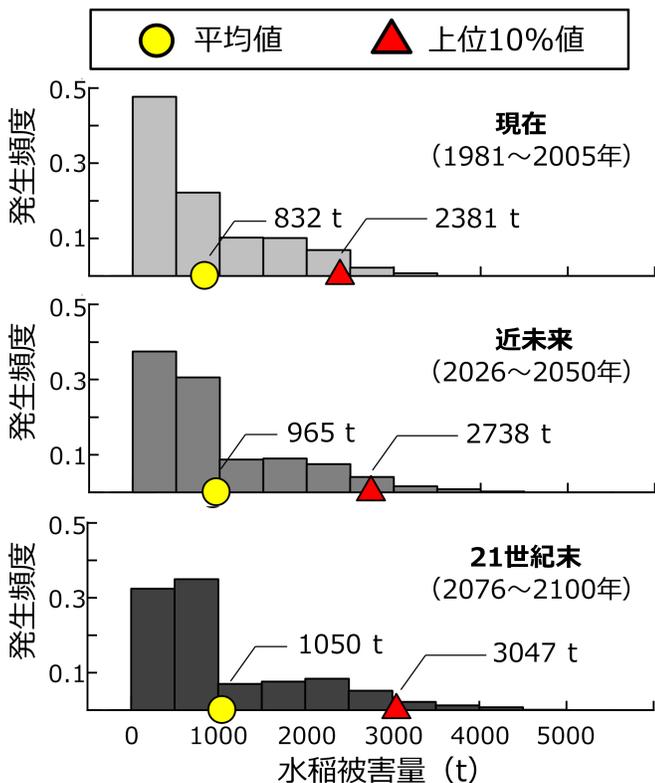


気候変動による豪雨の強大化が低平農地域の水稲生産に与えるリスクを評価する手法です。複数の気候シナリオの特徴を反映させて作成した多数の豪雨群を用いるため被害量や金額を統計的に評価でき、新たな排水計画や流域水管理方策の策定に有効です。

1 気候変動を考慮した低平水田域の水稲被害リスクの評価手法



2 水稲被害リスクの評価結果



● 水稲被害量は、水稲冠水深やその継続期間、生育時期等の冠水条件に対応した水稲減収尺度を使用して定量的に算定します。また、玄米単価を用いると容易に被害金額にも換算できます。

● 被害量の分布から、被害の平均値および想定しうる最大値が統計的に評価できます。

● 普及・社会実装への道筋

- 気候変動を見越した将来のリスク変化を盛り込んだ新たな排水計画手法の発案につながります。
- 都市域を含めた氾濫解析により、都市被害を軽減する流域一体での水管理手法の検討にもつながります。